

# 令和7年度第3回香美市立図書館協議会 議事概要

日時 令和8年2月10日(火)  
14時00分～15時30分

場所 香美市立図書館 かみーる

出席者  
委員 中村直人(委員長)、田島基宏(副委員長)、中嶋佳代、齋藤明彦

事務局 前田教育長、中山教育次長、小松生涯学習振興課長、松岡館長、山重統括官、田村主幹、他

内容 1.香美市立図書館運営計画(サービス計画・蔵書構築計画)の進捗状況について  
2.香美市立図書館のサービス実績と課題について  
3.その他

## 1.香美市立図書館運営計画(サービス計画・蔵書構築計画)の進捗状況について

委員からの意見
<ul style="list-style-type: none"><li>市民の登録率は46%と高いが、実利用率(12%)との乖離がある。休眠層へのアプローチが必要である。</li><li>資料費が日本図書館協会の基準(約1200万円)に対して900万円台と不足している。香美市の教育の質を維持するためにも、予算の確保は急務である。</li><li>農林業や工業などの実用書が意外に借りられているという分析結果を、今後の選書に活かしてほしい。</li></ul>

## 2.香美市立図書館のサービス実績と課題について

委員からの質問	事務局の回答
・利用者数は増えているのに、貸出冊数が微減している理由は何か。	・以前は回転の速い絵本が中心だったが、現在は大人向けの実用書や専門書の充実に力を入れているため、1冊あたりの読書時間が長くなっていることが一因と考えられる。
・高校生から30代の利用が少ないのは香美市固有の課題か。	・全国的な傾向ではあるが、特に高校生の読書離れは顕著である。探究学習や子ども司書養成講座などを通じて、中高生への接点強化を図っている。
・選書はどのようなプロセスで行っているか。	・図書館流通センターのシステムを活用し、週次で新刊をチェックしている。地元の書店(金高堂)や農文協からの見計らい本も組み合わせ、地域性に配慮した選書を行っている。

委員からの意見
<ul style="list-style-type: none"><li>若年層の利用を促すため、SNSでの発信など、デジタルの接点を増やすべき。</li><li>予算不足を補うため、クラウドファンディングやネーミングライツ(命名権の販売)による自主財源の確保を積極的に検討してはどうか。</li><li>アウトリーチ(郵便局やカフェへの配本)は非常に良い取り組みなので、継続してほしい。</li></ul>

### 3.その他

委員からの質問	事務局の回答
・分館(物部・香北)の人員削減の影響はあるか。	・令和8年度より予算削減(マイナス10%)に伴い、物部分室の職員が減員となる。物部支所との連携を強化し、サービスレベルを落とさないよう工夫する。
・駐車場の拡大はいつから利用可能か。	・令和8年4月からの供用開始を目指している。これにより「駐車場が満車で帰ってしまう」という機会損失を防ぎたい。

委員からの意見
・駐車場が拡大されても、自習目的の長時間駐車で埋まってしまっても意味がない。貸出・返却を目的とする利用者のための回転率の管理もセットで考える必要がある。 ・「かみーる」の愛称をもっと浸透させるため、マスコットキャラクター「か〜みいちゃん」の活用を広めてはどうか。